

きあひのわせなをのめごとに行あかつしかかせ下總かつしかとい

〔日本釋名米下〕早稻ハヤシはやし也、はとわと通じ、しとせと通ず、やの字を略せり。

〔倭訓栞和編三十七〕わせ倭名鈔に、早稻をよめり、爾雅翼に、秬比於秠小、其種甚早、今人爲早稻と

見ゆ、わははやの急語、せはしね反也、一説にわせは走る也、はしるをわしるともいふ、早く出る稻を走り穂といひ、凡て早く出る穀菜どもにはしりといへり、歌にはやわせとよめり、

〔成形圖說五十六〕字流志禰略○中

和世略註早手の手にいふ義、中手匠材集、志呂は、早梗本艸、時珍云、六、早稻幾暇格物論、閩書云、

早禾農書、穆稻農政全書、檀田浸處宜種、穆稻檀田、

〔段注說文解字七上〕稻早種也、此謂凡穀、皆有早種者、魯頌傳曰、先種曰種、謂先種也、釋从禾凡

言諸穀、而字从禾、直聲、常職切、詩曰、種稂、未麥、是則晉人皆作種、故種、稂、爲古、今字、寫、說、文、者、用、今、種、字、

之、耳、陸疾、孰也、謂凡穀、有如此者、邪風傳曰、先孰曰穆、周禮內宰注、鄭司農云、後種先孰、謂之種、按

種、穆之種也、而辨邦野之種也、从禾、垂聲、力竹切、詩曰、黍稷種稷、不解而解、於稷下、蓋本作重、轉寫易之也、下、膠、陸、或

从麥、麥聲也、今周禮作種、毛詩作穆、

〔清良記七上〕五穀雜穀其外物作分號類之事

早稻之類

一古出フルツ舉成フナシ 一廿日早稻 一四十早稻 一蕨早稻 一薰早稻 一馬嫁早稻 一黑早稻

一庭たまり 一内たまり 一丹波早稻 一九王子 一畑早稻

右十二品は古來の名也、此外餅太米に早稻有、其外今時者色々の名ありといへども、それは其

田地等不相應成により、種子かへり、又は悪敷農おそくわれば、色々に變ずる事有り、植前後は

此事記ごとくにして、二月彼岸に種子蒔、四月初より、同月廿日時分迄に植仕廻、六月末七月の